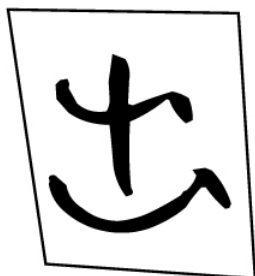
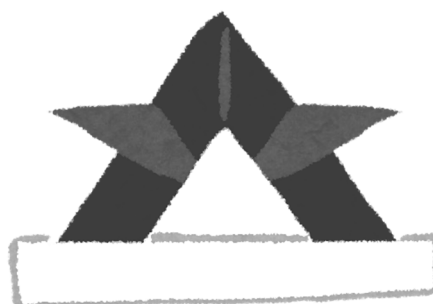
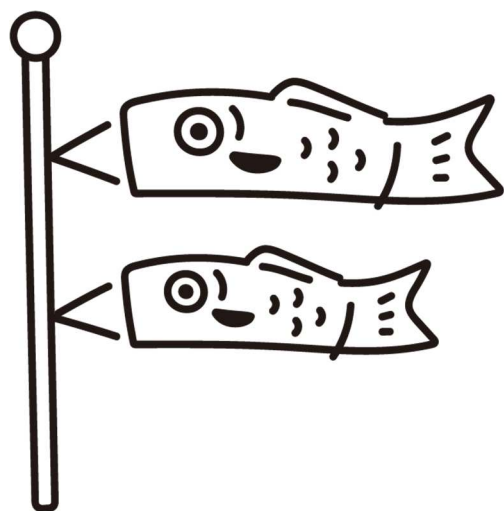


KSKP

たびだち つうしん



NPO法人 出発のなかまの会 178号



一九八四年 八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行

もくじ 目次

おおさか 大阪マラソクリーンUP作戦	あつぶさくせん	2
メンバーの想い	おも	3
ILPの時間です	あいえるびー じかん	4
グループホームの大規模化がとまらない	だいきほか	6
みらくるクラブ通信より「自由木工」	つうしん じゆうもっこう	8
スタッフ子育て日記	こそだ にっき	9
赤倉温泉スキー旅行に行ってきました	あかくらおんせん りょこう い	10
2023年度総会のお知らせ	ねんどそうかい し	11
活動のあと	かつどう	12

おおさか あっぶさくせん
大阪マラソンクリーンUP作戦

いくのく こうほうし おおさか む ちいき そうじ おおさか あっぶさくせん
生野区の広報誌に大阪マラソンに向けて地域を掃除する大阪マラソンクリーンUP作戦とい
う掃除ボランティア募集の記事を見つけ、みんなで掃除したらアピールにもなるし、地域はキ
レイになり、メンバーと楽しく活動出来るのでは？と応募しました。当日は実習生2名とメン
バー9人スタッフ7人と総勢18人で、各々仮装したり、鉢巻を巻いて「エイエイオー」と気
合いを入れ士気も高まり出発しました。ゴミ袋を手を持ち、火ばさみで道に落ちているゴミ
を次々と拾っていきました。たびだち共働作業所からの出発でローソン周辺から大池橋
交差点、勝山公園、生野区役所まで歩きながらゴミを拾っていき、勝山公園では休憩も兼ねて
ブランコや滑り台で遊び楽しみました。地域にはゴミが結構落ちていて、特にコンビニの周り
は沢山ゴミが落ちていて、普段通っている道にはタバコのポイ捨てのゴミが拾っても拾っても
永遠にあり、タバコのポイ捨ては『ほんとやめて欲しいー！』と思いました。あと、垣根を良
く見ると、タバコのポイ捨てもありますが、空き缶やお菓子の袋が沢山捨てられていたり、
靴下や靴が片足だけあったり、何で？（笑）というようなゴミが落ちていて、みんなと笑いな
がらゴミ拾いをしました。空だった袋がだんだんとゴミでいっぱいになっていくと、満足気な
メンバーがいて、ゴミ拾いがみんな得意な事にも気づきましたし、ゴミを拾っていくと気持ち



がすっとするんです。今回だけで終わらずこの活動
をまたやりたいなあー、何か無いかな？と調べてい
ると、大阪市が地域で掃除のボランティアを募集し
ている事がわかり、しかも掃除道具を無償で提供
してくれるという素敵な活動がヒットしました。
私は直ぐにそれに申し込みをして、お掃除リーダ
ーになってくれるメンバーを募集したところ Y さ

ん T さん H さんの3名のメンバーがリーダーになってくれました。活動チーム名は『たびだ
ちお掃除隊』です。これからメンバーと月1でアピールしながら地域を掃除していきたいと思
います。活動に興味持って下さる方、一緒に生野区をキレイに掃除しませんか？終わった後、
爽快感が味わえますよ。

にしおかさとか
(西岡里香)

メンバーの^{おも}想い

2月、^{かつ} ^{すうねん} 数年ぶりに^{こんだんかい} ^{かいさい} スタッフ懇談会が開催された。

スタッフ懇談会とは、メンバーがスタッフに対して^{たい} ^{ふだん} ^{はっしん} 普段、発信できていない^{ふまん} ^{ふあん} 不満や不安を^{おも} ^き ^{つた} ^{かい} 思い切って伝える会である。以前までは、ヘルプセンター・すきっぷの^{かいぎしつ} 会議室でおこなっていたが、「^{しごと} ^{ばしょ} ^{はな} 仕事をしている場所で話したくない」というメンバーの^{こえ} ^う ^{こんかい} ^{ボン} ^バ 声を受けて今回はBOMBAでおこなった。色々の^{いろいろ} スタッフやメンバーが^{さんか} 参加できるようにスタッフ懇談会は2日に^わ ^{つた} ^{かいさい} 分けて開催された。限られた^{かぎ} ^{じかん} ^{なか} ^{つた} 時間の中で^{こと} ^{つた} 伝えたい事を伝えられるように^{はつげんしゃ} ^{じぜん} ^{げんこう} 発言者は事前に原稿を^{ようい} ^{じゅんび} 用意し準備した。

そして^{むか} ^{とうじつ} ^{じぜん} ^{げんこう} ^{じゅんび} 迎えた当日。事前に原稿を準備していても^{なかなか} ^{はな} ^{こと} ^{でき} ^な ^だ 中々、スタッフに話す事が出来ず泣き出すメンバーもあれば、^{ようい} ^{たがみ} ^{どうどう} ^よ ^{つた} 用意した手紙を堂々と読み、伝えるメンバーもいた。支援者が良かれと思っ^{おも} ^か ^{ことば} ^{いや} て掛けた言葉が嫌だったというメンバーもあれば、^ば ^{わかい} その場でスタッフと和解するメンバーもいた。私自身もだが『^{わたしじしん} ^{いや} ^{こと} ^{ほんにん} ^{ちょこせつ} ^{つた} されて嫌だった事』をした本人に直接、伝えるのは、とても^{つら} ^{きりよく} ^{こと} ^{なに} ^い ^わ 辛くて^{きょうふかん} ^{いだ} 力がいる事だと思う。何を言われるのか分からないスタッフも恐怖感を抱きながら^{さんか} ^{おも} ^{はつげん} ^{おな} ^{きょうふかん} ^{ふあんかん} ^{いだ} 参加していたと思うが、発言するメンバーも同じように恐怖感や不安感を抱いていたろう。

日々の暮らしの中で、^な ^ば ^{かん} ^{ふまん} ^{ふあん} その場で感じた不満や不安を、^ば ^{はっしん} その場で発信できるメンバーは^{すく} 少ない。発信していたとしても、それを支援者が^{しえんしゃ} ^{ばめん} ^{おお} ^{かん} キャッチしきれない場面は多いように感じる。私自身、メンバーの^{わたしじしん} ^{はっしん} ^{すべ} 発信を全てキャッチ…はできていないだろう。

今回の^{こんかい} ^{こんだんかい} ^{じぶん} ^{しえん} スタッフ懇談会では、自分の支援はメンバーにとって^{ひび} ^く どうだったのか、日々の暮らしはメンバーにとって^{こころ} 心地よいものになっているのか…それをメンバーから^{おし} 教えてもらったような^き 気がする。今回、^{こんかい} ^う ^と ^{はっしん} ^{だいじ} 受け取ったメンバーの発信を大事に、^{こえ} ^{うなが} ちょっとした声かけや促しの^{しかた} ^と ^{かた} ^{じぶん} ^{かた} 仕方、コミュニケーションの取り方…自分のやり方はどうかな？と自分の支援を^{じぶん} ^{しえん} ^{かえり} ^{あらた} 省みて改めて^{おも} 思う。

こだま かな
(児玉和奏)



あいえるびー じかん ILPの時間です

みな あいえるびー そんな そんな かた かた あらた じりつせいかつ
皆さんILPをご存じですか。ご存じの方もそうでない方も、改めて。自立生活プログラム
あいえるびー しょうがいしゃ じりつせいかつ ひつよう ころがま ぎじゅつ まな ば しょうがいしゃ けんじょうしゃ
(ILP)とは、障害者が自立生活に必要な心構えや技術を学ぶ場です。障害者と健常者
とも い ば しょうがいしゃじしん ちから ば
が共に生きる場をつくるために、まず「障害者自身が力をつけていく場」です。

しせつ ざいたく へいきてき ばしょ く しょうがいしゃ しゃかい なか じりつせいかつ
施設や在宅の閉鎖的な場所で暮らしてきた障害者が社会の中で自立生活をしてい
とき せんぱい しょうがいしゃ せいかつぎのう まな しょうがいしゃぶんか でんたつ ば
く時に、先輩の障害者から生活技能を学ぶためにつくられた、障害者文化の伝達の場
ともいえるものです。生活技能とは、対人関係のつくり方、介助者との接し方、住宅、
せい けんこうかんり しょうりほうほう きんせんかんり ちょうり ききかんり しゃかいしげん
性について、健康管理、トラブルの処理方法、金銭管理、調理、危機管理、社会資源
つか かた
の使い方、などです。

ぜんこくじりつせいかつ せん た ー きょうぎかい じる ばっすい
全国自立生活センター協議会 (JIL) のホームページより抜粋

とうじしゃ じぶん ちいき まえ せいかつ じぶん えら き たいせつ
当事者が自分らしく、地域であたり前に生活し、自分で選び決めることを大切にしている
とうかい ながねんちから い と く わたしじしん そんない し
当会も、長年力を入れて取り組んできたプログラムです。私自身はプログラムの存在は知っ
ていたものの、関わったことはなく、いつか何らかの形で関わられたらな、と漠然と
おも ばくぜん
思っていました。

きゅう き
急に来た。

せんぱいしょくいん た じぎょうしょ とうじしゃ く かんしん ないよう
先輩職員が、「他事業所の当事者がひとり暮らしにとっても関心があるそうで、そんな内容の
あいえるびー きぼう とうかい ながねんじりつ きぼう しんてん とうじしゃ
ILPを希望されている。当会にも長年自立を希望しつつ進展していない当事者がいるし、ひ
とり暮らししている先輩や長年グループホームで生活している当事者にリーダーになっ
てもらってひとり暮らしや自立生活なんかをテーマにILPをやったら面白そう！」と、面白
そうに、おっしゃる。

とりあえず さっし わた じゅんび あいえるびー さんか いまひと なに
とりあえず冊子を渡され、準備します。が、ILPに参加したことなく、今一つ何をしたら
よいのか分かりません。せんぱいしょくいん はなし き おもしろ
先輩職員に話を聞く。「こうしたらよいかも、こうしたら面白そう」
と、面白そうに話されます。なるほど面白そうやな、き おもしろ おも
と聞いたときは思います。けど、今一つ
くたいてき なに しえんしゃ ようす
具体的に何をすればそうなるのか、ピンとこない。ピンときていない支援者の様子に、ベテラ
ン当事者リーダーもいつもと勝手が違う様子。

準備しきれないまま3回プログラムの第1回ILP当日。当事者リーダーのHさんが2時間フルでトークを繋ぎ、同じくリーダーのTさんも安定の笑顔の相槌。他事業所の当事者メンバーも話を聞いてくれたり質問に対して考えてくれたり。なんとか終了。が、当事者が中心になって、楽しみながら経験出来て、学び合っ…な感じとはちょっと違うな…。残念な感じ。

後日当事者リーダーと反省会。「準備が足りていなかった」「支援者が緊張していてその緊張がみんなに伝わった」「私ばかり話してみんなが参加している感じが少なかった」「プログラム内容が曖昧だった」と当然の厳しい振り返り。先輩職員にも報告。「当事者リーダー自身も、もっと準備する必要がある」。当事者が中心になって輝いて、楽しんで、学びがあって、なるためには支援者が具体的にあれこれしてしまうのではなく、当事者が中心になってしっかり準備ができることが大切で、それが自信になってILP当日に輝けるし、当事者自身の重要な経験や力になっていくのだな、という事を改めて実感。そうなれるような準備が、支援者には必要。難しい！のか？よく分からない！

この原稿を書いているのが、第2回ILP一週間前。当事者リーダーと、プログラム内容をあーでもないこーでもないとやりとりしたり、実際の生活費がイメージしやすいようにと“偽札”を作ってみたり。どうでしょうか。当事者リーダーや当事者メンバーは当日、輝けるのか。楽しく、学びがあるのか。支援者は当事者が輝けるような役割が担えるのか。乞うご期待。

かなもりかつや
(金森克也)



リーダーのTさん



グループホームの大規模化がとまらない

「ああ、またできてしまったか」と言いながらため息をつきました。なぜなら、隣に座っていたスタッフから渡されたチラシのグループホームが日中支援型だったからです。日中支援型はその名の通り、グループホームが日中も障害者を支援することで、障害者が24時間グループホームの中で過ごすことを可能にしています。これまで日中は家（ホーム）を出て、日中活動先で過ごすということがグループホームの制度設計の基本になっていました。それは、一日中同じ建物内に居ることを強いられた入所施設の生活は絶対に嫌だという当事者の思いがあったからだと思います。入所施設中心の障害者福祉から「脱施設、地域移行」の流れを汲んだ障害者運動の成果だと思います。現在も、大阪市では、昼間活動する場所と夜寝る家は別の場所にするために、グループホームと同一敷地内に生活介護や、就労系など通所で日中活動する事業所を設置しないようにしています。



しかし、大阪府下では日中支援型グループホームが少しずつ増えてきているようです。日中支援型グループホームは定員20名に加えて定員5名までのショートステイを併設することができます。一つの建物に最大25人の方が寝泊まりするということになります。これは私たちが思い浮かべるグループホームではなく、もはや「ミニ施設」です。グループホームの制度をつくった当初の思いや理念はどこへ行ってしまったのでしょうか。

このような「ミニ施設」が作られる背景には、労働者人口の減少、働き方改革等、現在の日本社会が直面している課題があり、「効率」良く運営することで利益をあげようとする一部の事業者の策として、日中支援型の定員規模を利用されているところもあるように思えてなりません。スウェーデンではグループホームの定員は5人までと決められています。なぜなのか？人権侵害が起こるからです。もっとシンプルな答えはメンバーが教えてくれています。「たくさんいたらケンカになるでしょ。」

日中支援型に続き国制度として新たに「通過型」というタイプのグループホームができます。グループホームを退去してひとり暮らしに移ることを支援する場所とされています。ひとり暮らしに移行した後もグループホームが一定期間支援を継続するとありますが、どのように支援するのは具体的に示されていません。



グループホームにも、障害福祉サービスを提供している事業者からたくさんの案内が送られてきます。生活介護、グループホーム、就労継続支援など利用者向けのチラシです。サービス提供事業者が切磋琢磨し事業者間で競争することによって、サービスの質が上がっていき、それが望まれる状態なのだと思いますが、そうなっているようには思えないことが起こっています。当会が活動している大阪市生野区にはおよそ100か所のグループホームがあるそうです。サービスを選べる時代になったといえれば聞こえは良いのですが、少しトラブルが起きただけで退居に追い込まれるケースもあるようです。事業者側の障害特性に対する理解不足や経験不足から、支援が十分に及ばないこともあるのかもしれませんが。



生野区グループホーム連絡会では、生野区と隣接区の有志が集まって、グループホームのスタッフの研修や交流を続けています。そこでは皆同じように悩む姿があります。意見交換などを通じて学ぶところも多く、研修を通じて少しでも成長し資質向上につながればと思います。

昨年、北海道にある社会福祉法人「あすなろ会」が運営するグループホームで、20年以上前から知的障害のある利用者が同棲や結婚を希望された際、不妊処置を条件提示して支援をしていたことが分かりました。ピープルファースト北海道のメンバーらが直接現地に行き、法人に説明を求めました。「提案はしたが、本人が望んだこと」と説明する法人の感覚には言葉を失いました。

障害者の高齢化、障害の重度化、医療的ケアなどに続いて、パートナーと一緒にグループホームで暮らしたい、出産や育児を望む障害者の生活をどのように支えていくのか、グループホームに求められる役割はさらに拡大するでしょう。合わせて個別支援をもっと進めていくことが必要です。メンバーと一緒にやってきたグループホームの暮らしをもっと豊かに、そしてもっと自由に自分らしく生きていけるように今後も微力ながら支えていきたいとおもいます。



いしいかおり
(石井香里)

「自由木工」

今年度最後のみらくるクラブは、廃材を使い、作品作りをしました。何を作るかは決めず、たくさんある廃材を自由に使い、それぞれイメージしたものを形にしていきました。この日は、あいにくの雨でしたが、BOMBAの駐車場にテントを立て、軒下も使いながらみんなで制作活動を行いました。

今回は、生野区学童期子ども支援連絡会でつながりのあった、ぽんぽこキャンパス/ミモザ食堂の廣川景太さんに講師で来ていただきました。

廣川さんは、リフォームなどを行う工務店もされています。事前の打ち合わせでは「机など足りないものがあつたらその場で作つたらいいし、なんでもありでやりましょう」と言ってくださり心強かったです。気さくな方で、みんな初対面でしたがすぐに仲良くなり、「この部分をこうしたいけどどうしたらいい？」などアドバイスをもらいに行ったり、器具の使い方を教えてもらったりしました。

のこぎりや金槌などは普段手にすることのないこともあり、みんな道具を使う楽しさを感じていたようで、慣れない手つきで板を切ったり、くぎを打ったりしていました。「その持ち方は危ないかな・・・」など見ていてドキドキする場面もありましたが、親御さんやボランティアの方に手伝ってもらったり、教えてもらったりしながら楽しんですることができました。

H君（小学4年生）は、みらくるちっぴで制作をする時はいつも自分のイメージを積極的に形にして、制作を楽しむことができていたので、今回も彼が楽しみながらどんな物を作るのかなと思っていました。でも、この日は何かを作るといふより、廣川さんが持って来てくれた電動ドリルなどの工具に惹かれたようで、何度も何度も木にビスを打ち、その作業に夢中になっていました。何かを作ることが活動の目的ではなく、自由に楽しみを見つけることを大事にしていたので、H君らしい楽しみ方ができてよかったなと感じました。

N君（小学6年生）は、釘を真っすぐ打てるまで、打っては抜いて、また打っては抜いてを何度もしながら自分が納得いくまで頑張っていました。N君の横でボランティアの中学生J君が、「もうちょっとや」「頑張れ」などずっと応援の声かけをしている姿がありました。

大人が支援していたら、「もういいんじゃない？」と妥協を促していたかもしれません。でも、J君がN君の頑張りに寄り添い続けたことで、N君も焦らず、安心して頑張れたのかなと感じ



じました。

さいご さくひんしょうかい かんそう き ほんた たい うち
 最後は作品紹介も含め、感想を聞いていきました。本立てやちゃび台、クマのついたお家に
 の もの おな ひと こせいゆた さくひん なか せんとう つく こ
 乗り物など同じものが一つもない個性豊かな作品ができていました。中には銭湯を作った子も
 いて、それぞれの感性が輝く活動になりました。

ほんきじ つうしん てんさい
 ※本記事は「みらくるクラブ通信」から転載しています

スタッフ子育て日記

がつ ちょうなん しょうがっこうにゅうがくじ いま すがた そうそう しょく ほそ こがら
 3月生まれの長男は小学校入学時には今の姿からは想像できないくらい食が細く小柄
 でした。ていがくねん とき まいにちじかんわり も もの いっしょ かくにん しゅくだい
 低学年の時は毎日時間割や持ち物を一緒に確認し、宿題はやりたくなくて泣いていま
 した。こうがくねん しゅうかんぶん まい きゅうしょく げつようび じゅんび も い
 高学年になると、1週間分5枚の給食ナプキンを月曜日に準備して持って行くという
 ほうほう じぶん わたし きゅうしょく き
 方法を自分であみだし、私が「給食ナプキンかえた？」と聞くこともなくなりました。たよ
 りなく見えたていがくねん ころ すこ か ねんせい しゅうだんとうこう はんちょう
 低学年の頃から少しずつ変わり、6年生では集団登校の班長をするようになりま
 した。はんちょう か うれ そうに見せ、誇らしげに大事にランドセルにくくりつ
 けていたのをおぼえています。

がつ ちょうなん しょうがっこうせいかつさいご さんかんび たいいくかん がっそう き たいいく
 2月に長男の小学校生活最後の参観日がありました。体育館で合奏をすると聞いて、体育
 かん い がっそうまえ ひとり ひとこと い じかん たいいくかん ひび わた おお こえ
 館に行ってみると合奏前に一人ずつ一言を言う時間がありました。体育館に響き渡る大きな声
 ひとり かんしゃ ちゅうがっこう さけ ちょうなん ばん ま
 で一人ずつ感謝や中学校でいたいことなどを叫んでいます。ドキドキと長男の番を待つと
 いま
 「今までありがとうございます。これからもがんばります。」いつもと違うよそ行きのしっかり
 としたこえ たよ りなく見えたころ おち た なみだ
 声、頼りなく見えた頃を思い出し、じーんときて涙してしまいました。

わらたにまさみ
 (藁谷正美)



赤倉温泉スキー旅行に行ってきました！！

2月22日、23日、24日に赤倉温泉スキー場にNさん、Tさん、Yさんのメンバー3人、スタッフ3人の計6人で行ってきました。僕自身、初めての旅行だったこともあり、少し緊張していました。更にNさんと一緒にスキーを楽しむという重大な任務と、30年ぶりのスキーということで緊張が増していました。

初日は早朝にNさんと合流し、新潟県の赤倉温泉スキー場に到着したのは15時ごろでした。インストラクターのIさんと合流し、さっそくグレンデへ。Tさん、Yさんは食材の買い出しに行ってくれました。Nさんは3年ぶりだと聞いていましたが、臆することなく颯爽とIさんと滑っていきます。リフトが16時までしか動いていないので、初日は2本滑って終了。

2日目はTさん、Yさんはスノーシューを、Nさんは僕とIさんとグレンデへ。Nさんは早く滑りたいようでリフトを待っている間もそわそわとされています。3人並んでリフトに乗っている時もテンションは高く、「レストラン」や「ポテトフライ」と昼食の事を話していましたが、リフトを降りると冷静になり、Iさんと一緒に笑顔で滑っていきます。Nさんは斜面の起伏などにもしっかりと対応し転倒することなく、楽しそうに滑っておられます。エレガントコースを2本ほど滑りロッジに行き、昼食をもりもりと食べ、午後からもIさんと一緒に楽しそうにグレンデへ。14時ごろにさすがに疲れたのかグレンデの中ほどにある「ベアー」という喫茶店に行こうと提案すると、すぐに向かわれました。おやつとジュースを飲んでゆっくりと過ごして、今日はこれで終わりかな？と思っているとNさんはリフトの方へ。「まだ滑りますか？」と声を掛けると気合十分で頷かれました。私は疲れたのでIさんに「少し疲れたので休憩していてもいいですか？」と確認し、リフトのそばで休憩をとっていました。休憩している間にもNさんは颯爽と楽しそうに、僕の前を通過していきました。16時ギリギリまでスキーを楽しみ、山荘に戻って夕食を食べた後は、すぐに部屋に戻っていました。

3日目はスキーをする時間が無く、お土産を買って電車に乗って大阪へ。私自身、初めてのメンバーとの旅行だったこともあり、緊張はしていましたがNさんのスキー場での笑顔は忘れることが出来ない良い思い出になりました。余談ですが2日目に途中合流してくれたKさんに今後の為にとスキー特訓を受け、筋肉痛になったこともいい思い出です。

ほりもとまさひで
(堀本政秀)

2023年度総会のお知らせ

いつも当会の活動へご支援いただきありがとうございます。2023年度は、コロナウイルス感染症に気を付けながら、止まっていた活動を再開していきたいと思っております。これからも“地域で支援を必要としている人”に必要な支援ができるように、“生きにくさを抱えた人”が社会から孤立することがないように、日々の活動をとおして『地域』づくりの取組みを進めていきます。

下記の日程で、2022年度の活動をふりかえり、新たな活動をスタートさせる総会を開催いたします。会員の皆様、是非ご参加ください。

日時： 2023年5月29日（月） 15時00分～16時00分
場所： 東成区民センター6階 小ホール（大阪市東成区大今里西3-2-17）

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください！

◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方
会費3,000円+通信送料300円 計3,300円

◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方
寄付金 年間3,000円以上

★当会は、認定NPO法人として認定されていますので、ご寄付をしていただくと、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税（大阪市内・府内にお住まいの方）】を受けられます。認定NPO法人として続けていくためには、年間3,000円以上寄付して下さる方が、100人以上必要です。ご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方 購読料500円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※2022年1月17日から、ゆうちょ銀行の払込みサービス料金の改定により、

寄付金をゆうちょ窓口及びATMから現金でお振込みいただく場合は、
加算料金110円が払込人に請求されることになりました。

キャッシュカード・通帳（暗証番号が必要）から振込む場合は、
加算料金はかかりません。

ご負担をおかけすることとなりますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

活動のあと

1/5 生野区相談支援事業所連絡会役員会	3/10 第三者委員会
1/6 内部研修(人権研修⑦)/グループホームスタッフ全体会議	3/11 IKUNO サラダボウル・プロジェクトミーティング(松野農園)
1/7 内部研修(虐待防止研修⑦)	3/14 喀痰吸引等安全委員会/どんどんプロジェクト会議①
1/11 生野区グループホーム連絡会(事例検討) あじさいネット後見相談/BCP 会議	しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【自立生活応援編】Eプロジェクト会議(どんどん)
生野区学童期子ども支援連絡会役員会	3/16 生野区相談支援事業所連絡会
1/12 大阪府相談支援従事者現任研修①	3/18 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)
1/15 みらくるクラブ【運動会】(いくのパーク)	3/19 しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【自立生活応援編①】
1/17 内部研修(生活介護職員研修)	3/20 どんどんプロジェクト会議②
1/18 生野区学童期子ども支援連絡会	3/22 防災委員会/生野区 NPO 連絡会役員会
1/19 生野区相談支援事業所連絡会/生野区まちづくりセミナー	3/24 どろん(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会役員会
1/21 トラウマインフォームドケア勉強会	障大連運営委員会
子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)	3/25 内部研修(発達障害勉強会)
1/25 生野区 NPO 連絡会役員会	みらくる ゆーすと 思春期勉強会
1/26 執行委員会	ピープルファースト大阪大会会議
1/27 出発通信発送/どろん(松野農園)	3/27 内部研修(生活介護職員研修)
地域共生ケア生野推進委員会	3/27~29 契約更新手続き
障大連運営委員会	3/28 みらくるちっぴ おめでとう会
1/28 内部研修(発達障害勉強会)	執行委員会/どんどんプロジェクト会議③
2/2 執行委員会/内部研修(医療的ケア研修)	3/29 みらくる ゆーすと おめでとう会
生野区相談支援事業所連絡会役員会	たびだち共働作業所花見
2/3 スタッフ懇談会①(どんどん)	IKUNO サラダボウル・プロジェクトミーティング(松野農園)
グループホームスタッフ全体会議	3/31 グループホームスタッフ全体会議
介護職員初任者研修現場見学	はたらく・つながる「とりの木」花見
2/6 介護職員初任者研修現場見学/インクルーシブ教育学習会	4/2 IKUNO サラダボウル・プロジェクト(桜まつり)
2/7~21 実習生受入(東大阪大学)	4/4 どんどんプロジェクト会議④
2/8 生野区グループホーム連絡会世話人会	4/5 生野区グループホーム連絡会世話人会
生野区学童期子ども支援連絡会役員会	4/7 生野子育て社会化研究会
2/9 大阪府相談支援従事者現任研修②	4/8 内部研修(発達障害勉強会)
2/10 作業所会議	ご近所お散歩マルシェ(松野農園)
グループホーム再編に対する緊急行動ネットワーク会議	4/11 しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【自立生活応援編】Eプロジェクト会議(どんどん)
2/13 不登校・ひきこもり支援連絡会	4/12 生野区学童期子ども支援連絡会役員会
2/15 大阪マラソン“クリーンUP”作戦参加	4/13 ヘルパー募集活動(関西大学千里山キャンパス)
生野区学童期子ども支援連絡会	どんどん講演(関西大学堺キャンパス)
生野区相談支援事業所連絡会	しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【自立生活応援編】Eプロジェクト会議(どんどん)
2/17 グループホーム避難訓練/職場見学会(桃谷高校)	4/15 ガイドヘルパー養成講座①
生活介護職員研修打合せ	子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)
2/18 内部研修(発達障害勉強会)	4/16 ガイドヘルパー養成講座②
子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)	4/18 しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【自立生活応援編】Eプロジェクト会議(どんどん)
2/19 みらくるクラブ【木工制作】(BOMBA 前)	4/19 生野区学童期子ども支援連絡会
2/21 執行委員会	4/20 ヘルパー募集活動(桃山学院大学)
2/22 生野区 NPO 連絡会役員会	生野区相談支援事業所連絡会
2/24 どろん(松野農園)	4/22 ガイドヘルパー養成講座③
地域共生ケア生野推進委員会役員会/障大連運営委員会	4/23 しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【自立生活応援編②】
2/25 IKUNO サラダボウル・プロジェクト(松野農園)	4/26 執行委員会/生野区 NPO 連絡会(まちあるき)
2/28 しきつ杜 ILP(自立生活プログラム)講座【自立生活応援編】Eプロジェクト会議(どんどん)	4/28 地域共生ケア生野推進委員会役員会/障大連運営委員会
スタッフ懇談会②(どんどん)	
3/2 大阪府相談支援従事者現任研修③	
3/3 グループホームスタッフ全体会議	
3/7 消防設備等法定点検①	
生野区相談支援事業所連絡会役員会/BCP 研修会	
3/8 消防設備等法定点検②	
生野区グループホーム連絡会(虐待防止研修)	
生野区学童期子ども支援連絡会役員会	

編集後記

今年も春になり桜を楽しんだかと思うと、それほどたっていないのに暑く感じる日が多くなってきました。コロナが落ちついた様な気がしますが、まだまだ油断できないので、最後のひと踏ん張りと思っ
て今年度も気を付けていきたいとおもいます。
かわいじろう
(河合次郎)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会
〒544-0011
大阪市生野区田島 1-10-30
たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749
郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
ホームページ <https://www.tabidati.jp/>
750 部

一 九 八 四 年 八 月 二 十 日 第 三 種 郵 便 物 承 認 発 行 人 関 西 障 害 者 定 期 刊 行 物 協 会 毎 月 (1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 の 日) 発 行 大 阪 市 天 王 寺 区 真 田 山 町 二 - 二 東 興 ビ ル 4 階 頒 価 百 円